

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報紙 No.28 2021年7月15日発行

2007年東洋町応募時の 高知県知事のご講演 「文献調査の意味を考える」

元高知県知事の橋本大二郎さんが、7月4日（日）に「文献調査の意味を考える」と題して、講演してくださいました。日本の原子力政策の問題点、そのなかで文献調査がどう位置づけられるのか、分かりやすく話してくださいました。

（1）「高レベル放射性廃棄物」とは何か？

核のゴミといっても、2種類あることを知ってください。原発を運転して生まれるのは「使用済み核燃料」です。フィンランドやスウェーデンなどが埋めると言っているのは使用済み核燃料であって、高レベル放射性廃棄物ではありません。

日本では、使用済み核燃料を六ヶ所村の再処理工場に運んで、プルトニウムを取り出すことになっています。このときに出てくる廃液が高レベル放射性廃棄物と呼ばれます。これを処分する場所を探すために、いま寿都町や神恵内村で文献調査が行われているのです。

（2）なぜ片岡町長は応募したのか？

日本記者クラブでの会見などを見ていると、片岡町長は、肺ガンからの生還や経産省との勉強会を通して、核のゴミの問題に一石を投じたかったと言ってい



ました。嫌味ではなく、その心意気は素晴らしいと思います。しかし、片岡町長は、使用済み核燃料と高レベル放射性廃棄物を混同しているのではないかと感じました。核燃料サイクルをやめれば、高レベル放射性廃棄物は出てきません。誰かが処分に手を挙げる必要はないものなのです。

また、調査の途中でやめられると片岡町長は言っていました。経産省から文書ももらっており、安心して

している町民もいらっしやるでしょう。しかし、ここに国のあざとさが隠されています。法律には、概要調査の前に、町長や知事が反対すれば進まないとしか書いていません。中止するとも断念するとも書いていないのです。

(3) 東洋町の応募

2007年の東洋町の応募のとき、私は高知県知事でした。「手を挙げれば、お金を出す」というのは、国の政策としておかしい、札東で人のほっぺたを叩いており、品がないと私は批判しました。町民の不安な気持ちをカネで買う工作資金ではないか。このままでは町が分断されて大変なことになると思って、資源エネルギー庁やNUMOに、県に差し戻してくれとお願いしましたが、聞く耳をもってくれません。すると、地元でリコール運動がはじまって町長は辞職し、再出馬ということになりました。ですが3400人の町なので、なかなか対抗馬がいません。ようやく、隣の市の市議が立ち上がることになりましたが、地盤のない方です。それでも、1821票対761票で圧勝しました。そして、新町長が申請を取り下げ、核抜き条例も作って、問題が片付いたのです。

(4) 経済性から議論しましょう

高レベル放射性廃棄物の問題は、安全性から議論することもできますが、私は経済性から議論すべきだと思います。安全性から議論すると、専門家がお墨付きを与えてしまう構図で進んでしまいかねません。それに、何か起きたときには、何十年も何百年も、いえ何万年もたったあとかもしれません。福島事故にしても、原発を誘致した人たちの大半はこの世にはいなかったでしょう。高レベル放射性廃棄物も同じです。噛み合う議論にするために経済面から考えましょう。

使用済み核燃料を再処理して作るプルトニウムは核兵器に使えるものですから、国際的に厳しく規制されています。日本は平和利用のために所持が許されていますが、45トンも持っています。プルトニウムを使うために高速増殖炉もんじゅが作られましたが、

事故を起こし、2016年に廃炉になりました。もんじゅは1兆円のお金を使い、これから30年かかる廃炉のために1500億円を使うと言われていました。

もんじゅ廃炉でプルトニウムの行き場がなくなり、でてきたアイデアがMOX燃料として一般の原発で使うプルサーマル発電です。ところが、普通の原発で使うウランに比べて、MOX燃料はコストが10倍から20倍もかかります。それはすべて国民が電気料金として払っています。

また、六ヶ所村の再処理工場は1993年に建設が始まりましたが、いっこうに完成しません。はじめは7600億円かかると言われていたのに、もう2兆9000億円を使いました。

核燃料サイクルが割に合わないことがはっきり分かりました。でも止まりません。どうしてでしょうか？ 電力会社は、使用済み核燃料をプールに置いています。使用率が75%になっています。このままだと原発が止まってしまいます。だから、六ヶ所村、むつ市の中間貯蔵施設に持っていくのです。

では、国の立場はどうなのでしょう？ 1980年代頃まで日本は資源小国だからと核燃料サイクルを推進してきましたが、時代が変わったにもかかわらず、組織の論理として続いているのです。それに、六ヶ所村、むつ市に対して燃料として預かってもらっているので、約束違反を恐れているのです。

電力会社も国も、破綻しているのを知りながら止められないのです。河野太郎さんもこのバカバカしさを指摘しておられます。



(5) 鳴かぬなら鳴くまで待とう

一度はじまった調査は、町が取り下げない限り、止まりません。徳川家康の「鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス」のように、知事や町長が概要調査はやめます、と言っても、国は、知事や町長が代わるのを待ちます。立ち止まるだけで、断念するわけではないのです。鈴木知事が反対しているからと安心している町民の方がいらっしゃるかもしれませんが、鈴木知事もいつまでも知事ではないでしょうし、議会構成の関係で反対を貫けるとも限らないのです。住民投票で反対が多くても、賛成が多くなるまで、国は待つのです。

(6) 楽しい運動にしましょう

皆さんがやっておられる運動は大変くたびれるものです。自分の思いがなかなか伝わらずに自信をなくすこともあるでしょう。私も、NHKをやめて、高知県知事選に出馬するとき、家族の生活はどうなるのかと不安でした。あらゆる団体が相手候補につきました。しかし、多くの一般の方々が私を応援してくれま

した。そして楽しい運動になっていったのです。

皆さんも楽しい運動をしてください。何十年もたったあと、いまの子どもたちが「あのとき、お父さんやお母さんが町のために頑張ってくれた」と振り返るような運動にしてください。

【橋本さんに感謝！ 参加者の皆さんに感謝！】

橋本さんは、高知県から飛行機を乗り継いで寿都まで来てくださいました。普段は講演の前には何も食べないそうですが、寿都のウニやカキを出したところ、美味しいと喜んで召し上がってくださいました。橋本さん、遠路はるばるありがとうございました。

また、会場には 135 人の方々が来てくださいました。6万 6300 円ものカンパも寄せられました。皆さんの熱い想いに感謝しています。今後の活動に有効に活用させていただきます。町民の会一同。

講演動画は町民の会 Youtube チャンネルで公開中です。右のリンクからどうぞ。



懐かしい我が故郷②



本当なら、この時期は、寿都のみんなが楽しみにしているお祭りです。今年も渡御が中止になってしまい、すごくすごく残念です。前回に続いて、『続寿都歴史写真集』から懐かしい一枚を紹介します。1980（昭和 55）年頃に郵便局前から写した大磯花山です。来年は、コロナも核のゴミ問題も収束して、お祭りができますように！

町民の会川柳②

七月に お祭らないとは 悲しすぎ
 来年は かならず踊るぞ 海の家
 この家の なまこ甘露煮 好きなんだ
 愛読書 NUMO取説 議会便り
 好きなもの 町民不在 核のゴミ
 一石を 投じてみたが 手挙がらず
 持つてくる とは言っていない ホントかな
 運動は 楽しみましょうと 橋本さん
 箱開けぬ 住民投票 誰のため？
 投げたはず 投じた一石 行方不明
 裁判て？ 情報開示が 当たり前
 都合良い 言い訳ばかりの 説明会
 核のゴミ 投じた一石 波紋だけ
 手柄だけ 独り占めの 説明会
 分断を 解消して お祭りやるぞ

(た) (つ) (つ) (ぼ) (ぼ) (べ) (べ) (た) (じ) (じ) (ん) (ん) (た) (た) (た)

あなたの川柳もぜひお寄せください。
 kakugomino@gmail.com

情報公開請求裁判 裁判官は町に鋭く質問

片岡町長は「みんなでつくろう寿の都」とのスローガンを掲げながら、議会全員協議会の議事録を「みんな」である町民に公開せず、肌感覚という独断で文献調査に応募しました。

町民の会の2人がその議事録の開示を求めて、函館地裁に訴えた裁判の第一回が6月22日に行われました。

この場で、裁判官は、全員協議会の議事録を公開しないことが、地方自治法の解釈として明らかなのか、



または、「申し合わせ」が法令等の明文規定になるのかが問題であると指摘しました。そして、町側の弁護士に対して、地方自治法を意識して主張をしてほしいと注文をつけました。また、地方自治法に明文の規定があるのか、また、全員協議会が会議体として非公開とすることが趣旨から明らかとしても、そのことから、会議の文書情報が非公開ということが自明のものとして決まっているのか、が問題になると述べました。さらに、議事録を非公開にすることをもし認めたとしても、日時や場所まで非開示にしたのはなぜなのか、と疑問を呈しました。そして、この裁判は、1年、2年と行うような事件ではないので、早期に集中して審理したいと述べました。

裁判終了後に、町民の会の代理人である谷次郎弁護士は「町としては対応にかなり苦慮しそうですね」と感想を漏らしていました。

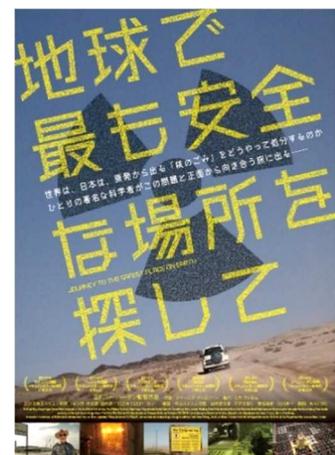
映画上映会 7/24 美谷 7/25 大磯

「地球上で最も安全な場所を探して」の上映会を行います。小野有五先生のミニ講演会もあります。ぜひお越しください。

★ 7月24日(土) 18時～ 美谷会館

★ 7月25日(日) 18時～ 大磯会館

地層処分に賛成する学者が、どこなら核のゴミを埋めることができるのだろうか、と世界中を旅する映画です。先日、湯別で行った上映会でも好評をいただきました。寿都町民みんなに見て頂きたいので、今後、別地区でも上映会を行います。よろしくお願いたします。



子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

HP : <http://kakugomi.no.coocan.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/106569234530018/>

北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374

ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:44246811

